



第 118 号

編集 P T A 係  
発行 長野県下伊那農業高等学校 P T A

### 本年度 P T A 活動について

P T A 会長 木下 秀樹



四月の P T A 幹事会・代議員会から本年度の P T A 活動が始まり残すところあと僅かとなりました。会員の皆様には常に P T A 活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。年度末にあたり本

年度の P T A 活動を振り返りたいと思います。

五月二十六日には P T A 総会・学年 P T A・学級 P T A を開催し、多くの会員の皆様に参加して頂き有難う御座いました。総会前に行いました教育懇談会では、須崎市初め法律相談所となる藤原寛史先生をお招きして「インターネットに関する犯罪被害と法

的責任」の演題でご講演をいただきました。八月二十五日には静岡方面への研修旅行を実施し、多くの会員の皆様と先生方の親睦を深める事ができました。飯伊地区高等学校 P T A 連合会役員総会、長野県高等学校 P T A 連合会、北信越高等学校 P T A 連合会への参加では、各校の取り組みを知る良い機会となり大変勉強になりました。特に七月に開催された北信越大会での記念講演は「P T A に期待すること」といった演題で鈴木寛先生のお話をお聞きし、「子育て四訓」として、「青年は目を離せ・心を離すな。」の訓示は心に

大変響きました。九月には、保護者と教職員の間が長野市で行われ米国コロンビア大学在籍中の教育学研究者、鈴木大裕先生の講演をお聞きしました。アメリカ力公教育の現状と、今後の日本教育でも起こる可能性がある「市場型教育改革」の問題点を教えて頂きました。十二月には、校内施設・設備等の充実と備品更新を求め要請書を、県教育委員会に提出致しました。会員の皆様には多くの署名を頂き、誠に有難うございました。

私達が暮らす今の社会では A I 技術の目覚ましい進歩や全ての職種で働き方改革を問われている。常に変化をしております。その中で良き伝統を後生に繋いで行き、改善・変革するべき事は、知恵を絞り対応する柔軟な姿勢が大切になります。今後も魅力ある下伊那農業高等学校を目指すために、教職員の先生方と P T A が一丸となり、生徒さんを温かく見守っていただくのが私たちの務めです。で、会員の皆様方のご協力の程をよろしくお願い致します。

最後となりましたが未熟な私のために、役員の皆様方、先生方には大変お世話になりました。無事一年間を終える事が出来、大変貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

各地域に設置され、意見を伺いながら、二〇二一年三月には全県の「再編・整備計画」が確定される予定となっています。

高校時代は、自らの生き方を模索する時期です。すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びが実現されるよう、ご理解をよろしく願います。

### 高校改革〜夢に挑戦する学び〜

校長 村澤 博富美



改革は、学校だけでなく、P T A や同窓会を含め地域の方々にも高い関心を寄せていただきたい地域の将来に係る重要な課題です。

こうした現状を全体的に抱える中、昨年九月に県教育委員会から高校改革の実施方針が公表されました。社会が大きく変化し、将来を見通すことが困難な時代が到来しています。人工知能をはじめとする先端技術の急速な進歩とともに、大量生産からイノベーションへと移行し、人生百年時代といわれる超長寿命化社会を私たちは迎えることが当たり前の状況にあっ

南信州では、高齢化の進展と生産年齢人口の減少が進み、特に平成二十年代に入り地域の総人口は減少状態に突入しています。地域の発展に寄与する人材の育成は待ったなしの課題となっています。「教育は未来の人づくり」といわれます。それはそのまま「地域づくりは人づくり」につながり、高校

て、これからの社会を担う子どもたちは、変化に翻弄されず、変化に取り残されず、自ら未来を切り拓いていく力と勇気、さらには社会の担い手として主体的・自律的に社会と関わり、仲間と協働して社会を創っていく「新たな社会を創造する力」を学びの中で培っていく必要があります。

これらを踏まえ、本県の高校教育の目指すべき方向性を具体的に次のように打ち出しています。

①自ら立てた問いに対し、チームとして協働しながら解を見つけ、新しい価値を主体的に創造していくことができる資質・能力の育成。

②二度しかない人生を自分はどう生きたいかという自分の人生を構想する力(キャリアデザイン

ンカ)の育成。

この「実施方針」では、高校の将来像を具体的に描いていくために「新たな学びの推進」と「再編・整備計画」のそれぞれについて方針を示し、「新たな学びの推進」では「探究的な学び」の普及、各校の学びを体系的に示す「三つの方針」(生徒育成方針、教育課程編成・実施方針、生徒募集方針)の策定及びモデル校等による多様な学びの整備充実について示し、「再編・整備計画」では、少子化が進行する中で再編・整備の基本的な方針と旧十二通学区ごとの高校改革の方向性が示されました。

飯田下伊那地域の旧第九通学区では、一九九〇年(平成二年)のピーク時に二、八三〇人であった中学校卒業生数が、二〇〇八年には一、八五二人まで減少し、さらに二〇一三年には二〇一七年一、七二五人の約六八％(一、一六九人)、約十三学級程度減少すると見込まれています。現状では都市部立普通校、都市部立専門校、中山間地立校が配置されており、現段階では概ね適正な規模を有しているが、将来的には各校の学校規模の縮小が想定され、地域全体でこの地域の高校のあり方や将来像について検討を進め、地域の合意形成を図っていく必要があると、再編計画の方向性を示しています。

今後は、この「実施方針」に基づいて、今年九月までに「高校の将来像を考える地域の協議会」が

お願い申し上げます。

# 会務報告

事務局長 佐藤 元 勇

会員の皆様には日頃よりPTA活動にご理解を賜り、ご協力いただき誠にありがとうございます。ここに、今年度の会務報告をさせていただきます。

入学式後、一学年の学級代議員と本会役員の選出を正副会長立会いのもとお願いしました。四月中旬に第一回代議員会が開催され、二十九年事業・会計決算・監査報告、今年度事業計画・会計予算について慎重審議のうえ承認されました。役員交代に際し、伊藤和宏会長、前島はるえ副会長に感謝状が贈呈され、労をねぎらいました。五月二十六日にはPTA総会が開催されました。午前中に授業参観が行われ、午後の総会前の教育懇談会では、法律事務所M.A.I.M.E.Nより弁護士藤原寛史氏をお招きし、「インターネットに関する犯罪被害と法的責任」との題で講演していただきました。総会では代議員会承認された議事が報告されました。その後、学年・学級PTAが開催され、全校約一三〇名の会員が出席し、一日の日程を終えました。六月には合同部会が開催され、生活指導部・教育広報部、地区懇談会の計画立案をしていただきました。七月上旬の地

区懇談会は、せっかく計画したものの豪雨により中止せざるを得なかった地区もあり、大変残念でした。八月下旬には静岡方面への研修旅行が行われ、五十名の参加があり、会員、教職員とも親睦がすすみました。二月中旬には第二回代議員会が開催され、今年度の事業・会計決算中間報告が承認されました。

一年間のPTA活動を通して、会員の皆様には大変ご支援ご協力を賜りました。来年度は元号も変わり、学校も創立百周年に向け準備が急ピッチで進む予定です。増々保護者と教職員との連携が必要となってきます。今後ともよろしくお願いいたします。一年間ありがとうございました。

# PTA教育広報部の活動を振り返って

教育広報部長 木村 直 史

今年に入り寒暖差が大きく体調の管理が難しい日々が続きましたが、日に日に春の足音が近づく今日のごろ、皆様がいかがお過ごしでしょうか。

子供が下農入学と同時に、学級と学年役員と言う大役を務める事となり、私も子供と一緒に又、下農にお世話になる事となりました。二年目になり、教育広報部副部長、三年目には部長と言う大役を務める事となり、卒業してもなお下農に関わり、充実した三年間を過ごす事が出来ました。

さて、本年度の教育広報部の活動を振り返ってみると、子供が下農入学と同時に、学級と学年役員と言う大役を務める事となり、私も子供と一緒に又、下農にお世話になる事となりました。二年目になり、教育広報部副部長、三年目には部長と言う大役を務める事となり、卒業してもなお下農に関わり、充実した三年間を過ごす事が出来ました。

# 生活指導部活動報告

生活指導部長 片 桐 恵里香

本年度の生活指導部の活動を振り返ってみますと、四月の部会では活動目標を確認と活動計画について確認しました。六月の部会ではJR鼎駅での立ち番を決めて頂きました。七月五日には下伊那地区高等学校生徒指導連絡協議会が本校稲丘会館で行なわれ、各校の近状報告とPTAの活

動状況について発表、確認して参りました。十月二十六日から十一月一日までの五日間、JR鼎駅にて先生一名、保護者二名で実施しました。十一月三日の稲丘祭では、約二時間ずつ、三グループで警備を行ないました。

昨年度に副部長を引き受けた時から今年度の部長まで、

りを目にする事が多くあり、下農は運動系、文化系、農業クラブ活動のどれも活躍を見ることが出来ました。やはり下農は地域にねずいた学校と再度認識する事が出来ました。最後にありますが、この一年間、会長を始め役員の皆様、先生方の協力により教育広報部の事業を無事に終える事が出来た事に感謝申し上げます。今後も下伊那農業高校とPTA活動がより一層発展する事を願い、今年度の活動報告とさせていただきます。

大変お世話になりました。



# 稲丘祭を振り返って

自治活動部長 清水茂子

今年の稲丘祭は十一月三日(土)文化の日に一般公開、四日(日)に校内祭を実施しました。好天の下、大勢のお客様に来ていただき盛況でした。準備から実行委員長 齋木茉凜さん、副委員長 前垣沙羅さん、生徒会長の熊谷美月さんを先頭に「平成最後この瞬間(とき)」を築し64(むよー)をスローガンに計画しました。前夜祭では下農コンテスト、クラス対抗ミニゲームなどを実施、今年が目玉ははちまきを用意し、ゲームに使用しました。これは校内祭の体育祭にも利用され学科別のカラフルな色が祭りに彩りを添えました。オーピングセレモニーは突然ダンスが始まる(フラッシュモブ)で生徒が踊り始めます。セミプロの沙羅さんの指導のもと休みを返上して練習した成果が出て皆の目を惹きつけてくれました。十一月三日(土)一般公開の日は好天、農産物展の他体験ができるコーナーを増やしました。学協委員会が無くなったため有志で組織した軽食喫茶コーナーは昨年同様賑やかでした。軽食喫茶の会議室に来年に迫る一〇〇周年事業の一環として各学科の一〇〇周年の歩みを展示しました。四つの

展示用ボードは鉄と板を用いて作った機械科の生徒と先生の手作り作品です。中庭に山羊をお供にフォトスポット、階段には保健委員中心にクラス毎作った階段アートが展示され校内を賑やかにしました。各クラスとも芸術的なセンスあふれる作品でした。お客様が楽しめる物なるべく多くと創意工夫しました。十一月四日(日)の校内祭では今年はじめてクラスのステージ発表を企画しました。委員会や学科展の準備で忙しい中、クラスの出し物の練習もしました。各クラスともユニークな出し物で持ち時間の10分間があっという間でした。短時間の練習とは思えない位完成度の高いダンスや歌声が会場を魅了しました。正副担任も仮装して出場する場面もあり賑やかでした。生徒の底力を見せていただきました。校内祭の後の体育祭ではクラス全員リレー、班対抗リレーで盛り上がりました。学科毎のはちまきの色でクラス順位がよくわかり体育祭が今まで以上に盛り上がりました。閉祭式そして後夜祭。生徒の歌やダンスが披露されました。最後の花火を関島煙火の方に打ち上げていただきました。18時の夜空に花火が輝

きました。全校で盛り上がった稲丘祭、生徒一人一人が達成感を持たれたことと思います。生徒の発想、力は無限です。



# 平成30年度卒業生の進路状況

(平成31年3月卒業予定者)

平成31年2月18日現在

卒業生数				合計	アグリ サービ ス	農業 機械	園芸 クリ エイト	食品 化学
男子	64人			計	156	39	41	39
女子	92人	人数 (人)	比率 (%)	男	64	4	37	13
合計	156人			女	92	35	0	28
就職者 男子32人 女子34人 小計66人	管内	54	34.6	男	27	1	20	3
				女	27	12	0	5
	県内	3	1.9	男	2	0	2	0
				女	1	1	0	0
	県外	7	4.5	男	3	0	2	1
				女	4	0	0	1
	公務員	1	0.6	男	0	0	0	0
				女	1	0	0	1
比率 42.3%	1	0.6	男	0	0	0	0	
			女	1	1	0	0	0
進学者 男子31人 女子58人 小計89人	四年制大学	16	10.3	男	3	0	1	1
	短期大学	17	10.9	女	13	2	0	5
				男	4	1	2	1
	県農大等	6	3.8	女	13	8	0	4
				男	3	0	0	3
	比率 57.1%	50	32.1	女	3	1	0	2
男				21	2	10	4	5
専修学校等	50	32.1	女	29	10	0	10	
			男	2	2	10	4	5
未定 1人	1	0.6	男	1	0	0	0	
			女	0	0	0	0	

## 進路状況について

進路指導部長 中島 かおる

今年度三年生の二月十八日現在の進路状況は別表の通りです。就職に関しては、ここ数年、管内求人件数は安定していますが、職種としては「製造業・建築土木系」が中心で、「販売・事務系」の求人は少なく、必ずしも生徒の希望する職種ばかりではありません。就職希望者全体としては、公務員希望者が少なく（一名）、県外希望者が比較的多い（六名）傾向にありました。が、管内においては、選べるだけの求人があるが故に、人

気のあふ企業に見学希望が殺到してしまい、校内選考においても選抜が必要となるケースがありました。また、県外希望者の中には厳しい結果もでしたが、地元就職においては一次試験で100%内定をいただきました。同窓生の皆様が今まで積み重ねてくださった「下農ブランド」が広く浸透しているお陰で有り、本当にありがたく思います。こうした本校に対する信頼や期待にこたえるためにも、「就職はゴールではない」という

ことを肝に銘じ、日頃の教育活動の中で地域との連携一層を大切にしていきたいと思えます。進学については、今年度、短大進学者が減少した分、大学進学者が十六名と多く、中でも難関とされる国公立大学農学部にも四名合格することができました（信州大学・宇都宮大学・香川大学・静岡大学）。農業高校での学びを大学での研究内容といかにリンクさせ、アピールできるかがポイントとなります。周到な準備が必要であるとともに、進学後に耐える学力の向上が求められ、授業上の学習習慣が不可欠です。入試形態については、ほと

この春休みには、オープンキャンパス・看護医療体験・職場体験等に積極的に参加し、自分が何をやりたいのか、自分自身とじっくり向き合っている時間を大切にしてください。この春休みには、オープンキャンパス・看護医療体験・職場体験等に積極的に参加し、自分が何をやりたいのか、自分自身とじっくり向き合っている時間を大切にしてください。

### 就職先 《公務員》泰阜村役場

《管内》K O A七久里の杜4、夏目光学3、化成工業2、コボックス2、小林製袋産業2、ジョイフルテン2、多摩川マイクロテップ2、南信州菓子工房2、みなみ信州農業協同組合2、盟和産業2、阿南自動車、旭松食品、ADVANCE、輝山会記念病院、飯田精機、飯田パルスモ、井坪工務店、エツカ美容室、NSKマイクロプレジジョン、雄長組、コクサイショパースエイト、コシブ精密長野工場、コーエー精機、コーシン工業、三洋工具、信濃雪、シチズン時計マニュファクチャリング、シルクホテル、JMC、スタンレー伊那製作所、たかどやモーモー、ちさと東、天恵製菓、トマツ本店、日本郵便、NEXAS、はと錦、富士電機、北陽建設、丸三玉木屋、宮澤組

《県内》三甲2、コガネイ駒ヶ根事業所

《県外》足立牧場、エーシーオー、カクヤス、三宗、高木英治の店エマ、ホープヘアー

### 進学先

《四年制大学》信州(農)、宇都宮(農)、香川(農)、静岡(農)、愛知学泉(家政2)、愛知みずほ(人間科学)、朝日(法)、金沢学院(人間健康)、岐阜女子(家政)、中部(応用生物)、東海学園(健康栄養)、名古屋文理(情報メディア)、新潟食糧農業(食料産業)、南九州(健康栄養)、酪農学園(農食環境)

《短期大学》飯田女子(幼児教育4/家政3/看護1)、信州豊南(言語コミュニケーション)、松本(幼児保育)、愛知学泉(幼児教育)、中日本自動車(自動車工学2)、名古屋経営(未来キャリア)、名古屋文理(食物栄養2)、平成医療(リハビリテーション)

《大学校》長野県農業大学校(総合農1/果樹実科2/畜産実科2/野菜花卉実科1)

《専修学校》調理・製菓14、自動車8、看護・医療4、音楽4、動物4、芸能4、医療事務・公務員2、フラワー2、ブライダル1、保育1、服飾1、デザイン1、美容1、情報1、ゲーム1、スポーツ1